※令和４年度以降入学生用

学校番号	404

令和８年度　美術科

教科	美術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「美術１」　（光村図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現方式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に見方が広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり身につけることをめざす。
（a）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫しながら身につけ、創造的に表す力を身につける。　（b）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。　（c）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情と感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識を理解している。創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成している。創造的な表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫している。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	色彩構成	・色鉛筆を用いて、色彩効果を学ぶ。色彩の体系を理解して、思い通りに混色、配色ができるようになる。	a:色彩の効果について正しく理解し活用している b:主題に見合った効果的な配色を工夫し表現できている c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	油彩「静物画」	・二点透視図法を学ぶ。 ・画面の大きさに見合った構図やバランスのとれた配置を学ぶ。 ・油絵具の扱いに慣れる。 ・塗り重ねやグラデーションの技法を学ぶ。 ・質感の表現を学ぶ。 ・合評会	a: 二点透視図法を理解し正確な形を描けている 油絵具の特性について理解し作品を制作できている b:モチーフの特徴を感じ取り、質感の表現を工夫している それぞれの作品の良さを感じ取ることができている c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
	デザイン「ロゴマーク」	・意図と伝達効果の視点からデザインを理解する。 ・自分の名前をロゴデザインし、色鉛筆で着彩する。	a:色彩や形態の視覚効果について正しく理解し活用している b:主題に見合った効果的な配色を工夫し表現できている c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
2学期	メディア表現	・現代アートやメディアによる発信について触れ、制作意図やその表現方法の可能性について考える	a:芸術が人々の心に与える効果について正しく理解している b:主題に見合った表現を工夫しアイディアに反映できている c:深い考察をもとにしてアイディアを出している	学習プリント 取組状況 提出物	提出物	取組状況 振り返り
	鉛筆デッサン基礎	・形のとり方やタッチのつけ方など、鉛筆デッサンの基礎を学ぶ。 ・石膏レリーフ（面取り）のデッサンを通して、明暗を捉えて立体感を表現する技術を身につける。 ・自画像デッサンを通して、顔の立体感や形状、線の流れを捉えて表現する技術を身につける。 ・合評会	a:鉛筆デッサンの技法を学び、表現に合った鉛筆を使うことができる モチーフの形態や特徴を観察し正確に描くことができる b:タッチの強弱や粗密を工夫しながらモチーフの質感や立体感を表現している c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	油彩「顔」	・「自画像」または「タレントの顔」を油絵で描く。 ・これまで学んだ知識や技術をすべて使って、力強くかつ繊細に描く。 ・画面構成、立体感、細部の表現、肌や髪の質感、色の深みや奥行きなどをじっくりと描き出す。 ・合評会	a:対象をよく観察し正確な形を捉えて描くことができる 混色や塗り重ねで意図した色を作り出すことができる b:人物の特徴や内面性を表現し描き出す工夫をしている c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
3学期	油彩「三面図」	・煮干を油絵で写実的に表現し、三面図を作成する。 ・形状や色彩を把握する。	a:対象をよく観察し正確な形を捉えて描くことができる 混色や塗り重ねで意図した色を作り出すことができる b:個体の繊細な色みや特徴を表現できている c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	彫塑「煮干しマグネット」	・煮干しの形状を立体的に把握し、木彫で再現する。 ・用途に合った適切な道具を選び、安全に扱って作品を制作する。 ・アクリル絵具の特性を理解する。 ・個体の細部の色味を感じ取りながら、忠実に再現し着彩する。	a:木彫の技法を学び、表現に合った道具を使うことができる 対象をよく観察し正確な形を掘ることができる b:個体の複雑な形状の変化を再現し、繊細な色みや特徴を表現できている c:より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度